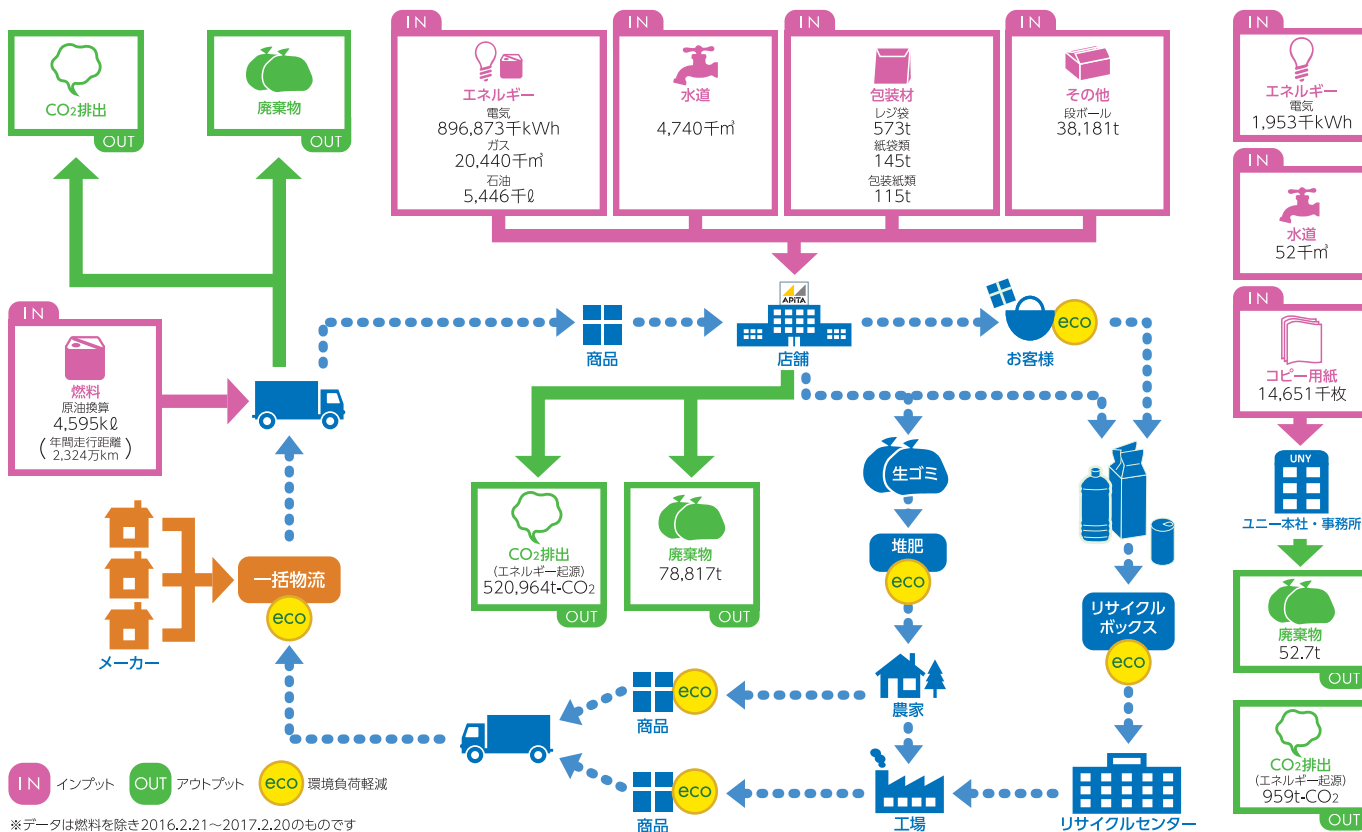


地球温暖化の原因である温室効果ガスの排出は、事業活動(事業所の維持・商品の輸送など)に大きく起因しています。とりわけ二酸化炭素の排出はエネルギー需要に左右される面が大きく、事業活動における徹底した省エネやエネルギー転換など積極的な対策が必要です。ユニーは地球環境にマイナスの影響を及ぼす環境負荷をできるだけ出さないよう、継続的に軽減していくよう、その原因を調べ対策を考え行動していくことを、従業員や関係者がそれぞれの役割の中で実践しています。

事業活動における環境負荷

ユニーの事業活動の中で環境負荷の大きな原因は、店舗でのエネルギー使用です。店舗では、照明や空調・食品の冷蔵・冷凍の陳列ケースなどに電気やガスなどのエネルギーを使います。また、商品の輸送や冷蔵・冷凍保管の倉庫などでも多くのエネルギーを使用しています。これらのエネルギーは化石燃料(石油、石炭、天然ガスなど)

から得ているため、地球温暖化の原因といわれているCO₂などを排出しています。それ以外にも、店舗から排出する廃棄物やお客様が商品と一緒に持ち帰る容器包装も大きな環境負荷の原因になります。ユニーでは、これらの原因を明らかにし、環境負荷の低減に努め、エコ・ファースト企業として持続可能な社会を目指します。



環境負荷削減に向けての取り組み

私達物流部は、環境負荷削減に向けて「一括配送」、「混載推進」等で輸送の合理化を図り、CO₂の発生抑制に取り組んでいます。その結果、以下のとおりになりました。

- エネルギー使用量は、原油換算で4,595kℓ、前年比97.5%
- エネルギーの使用に伴って発生するCO₂排出量は、12,212t-CO₂、前年比97.5%、原単位では、99.7%(輸送量も減りましたが、それ以上に輸送距離を減らし改善しました。)
- 輸送量は、4,400万tkm、前年比97.8%(輸送距離 2,324万km)
- ダンボール購入金額(弥富センター購入分)は、540万円、前年比15.4%、傘・靴用のオリコンを導入し、前年▲2,960万円購入費を削減しました。

各センターにもデジタルコ、ドライブレコーダー等を導入し「エコ運転の啓発」に努めています。2015年~2016年にかけて、北陸・山静・関東北で常温統合センターを稼働しました。積載率UP、運行本数削減に向け、さらなる物流効率化に取り組めます。



業務本部 物流部長 浅井 盛希

省エネルギー・省資源活動

◆省エネ活動

店舗では、照明や空調、冷蔵・冷凍ケースに多くのエネルギーが使われています。そのため、可能な限りの節電に取り組んでいるほか、LED照明やリーチイン冷凍ケース等の省電力型機器を導入し、省エネルギーに努めています。空調の基本温度を管理し、電力のピークカットに取り組んでいます。2016年度の二酸化炭素排出量(エネルギー起源)は

2006年度対比△23.8%(原単位)と削減に繋がっています。今後さらに国の目標である2030年度までに2013年度に比べ△26%(総量)を目指していきます。また物流に係るエネルギー削減は「一括物流」、「混載推進」等で輸送の合理化を図っており、2016年度のエネルギー使用量は原油換算で前年比△2.5%でした。

ISO推進委員会(省エネルギー委員会)

店舗では、エネルギー使用量の削減を目的に月に1度ISO推進委員会を開催しています。メンバーは店長や各副店長の管理職と設備担当や専門店代表者などで構成され、毎月の電気、ガス、水道などの使用量の推移を確認し、削減の施策を検討し具体的に実施しています。ISO導入店舗は、省エネルギー委員会がISO推進委員会として施策を講じています。



LED照明の導入

従来の白熱灯や蛍光灯に比べ消費電力の少ないLED照明の導入を推進しています。2017年7月までに100店舗で導入が完了しています。LED照明の導入により1店舗当り消費電力が最大で30%削減の効果が期待できます。また売場及び冷蔵・冷凍ケースを一部消灯したりするなど、明るさを損なうことなく節電に努めています。



ライトダウンキャンペーンに参加

環境省主導のライトダウンキャンペーンに参加しました。これは、「CO₂削減/ライトダウンキャンペーン」の一環で、6月21日(夏至)と7月7日(クール・アースデー、七夕)両日には、夜8時から10時までの2時間程度、商業施設や家庭での一斉消灯を呼びかけたものです。



商品によるCO₂削減

ユニーでは環境配慮商品eco!onを開発販売しています。そのなかでも店頭のリサイクルボックスで回収し、牛乳パックを原材料に使用した「トイレットペーパー」は、バージンパルプを使用した場合に比べ、1個あたり約177gのCO₂を削減することに繋がると考えられます。



◆エネルギー使用量の推移

*データは、各年度とも2016年2月21日～2017年2月20日までのものです。*エネルギー使用量は店舗合計の数値



LED照明へ切り替えた店舗は大きな削減に繋がっています。また、電気使用量削減を環境目標としているISO導入店舗の理解活動の効果も反映しています。

LED照明への切替えの低発熱効果により店内熱量が減少し、空調使用を抑えたことも削減の要因です。今後は、節水トイレの採用や雨水利用などにより、水道水の使用削減を図ります。

LED照明への切替えの低発熱効果により店内熱量が減少し、空調使用を抑えたことも削減の要因です。今後は効率の良い設備転換により削減を図ります。

石油からガスへのエネルギー転換により石油の使用量は減っています。多くは非常用発電機に使用されています。

◆5社の電気使用に伴う二酸化炭素の調整後排出係数

電気供給事業者	平成27年度 (t-CO ₂ /kWh)	平成28年度 (t-CO ₂ /kWh)
東北電力株式会社	0.000573	0.000559
東京電力株式会社	0.000496	0.000491
中部電力株式会社	0.000494	0.000482
北陸電力株式会社	0.000640	0.000615
関西電力株式会社	0.000523	0.000496

2016年度のCO₂換算係数は下記より換算しました。

- 電気…環境省ホームページ温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 電気事業者別のCO₂排出係数(2015年度実績)(平成28年12月27日公表)
- 水道…独立行政法人国立環境研究所「水道に関するCO₂排出原単位の算定根拠」(環境省推奨)
- ガス・石油…環境省ホームページ温室効果ガス排出量 算定・報告・公表制度について 算定・報告・公表制度における算定方法・排出係数一覧(平成27年4月改訂後)

*二酸化炭素排出量: ●調整後排出係数…電気事業者の調整後排出係数(京都メカニズムクレジット・国内認証排出削減量を加味している)

●単位面積時間当りの使用量…CO₂排出量/営業面積×営業時間